

令和8年度新潟県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

令和8年5月19日
高等学校教育課

1 学力検査における出題の基本方針

- (1) 検査問題は中学校学習指導要領を基準とし、平均点 50 点程度を目安に作成した。
- (2) 問題作成に当たっては、基礎的・基本的な事項の定着を確認するとともに、思考力・判断力・表現力をより適切に評価することができるよう作成した。

2 一般選抜学力検査の平均点の概要（抽出調査）

(1) 5教科の合計得点の平均点（100点満点換算）

年 度	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
平均点	51.4	49.3	50.5	55.5	55.2	49.9	48.1	47.6	53.4	49.5

(2) 全日制の課程の受検者の教科別平均点（100点満点）

教 科	令和8年度平均点	令和7年度との比較	
		令和7年度平均点	増 減
国 語	49.9	61.9	-12.0
社 会	58.3	60.2	-1.9
数 学	42.8	45.3	-2.5
理 科	46.4	49.8	-3.4
英 語	50.3	49.6	0.7
5教科	49.5	53.4	-3.9

3 結果の概要

(1) 全体について

- 全日制の課程の受検者の、5教科の合計得点(100点満点換算)の平均点は49.5点で、令和7年度と比べて3.9点下がった。5教科の合計得点(100点満点換算)の10点区分ごとの人数の割合は、令和7年度と比べて、250点以下の割合が増加し、251点以上の割合が減少した。
- 各教科の平均点は、英語で令和7年度を上回り、国語、社会、数学、理科は令和7年度を下回った。
- 基礎的・基本的な事項をみる問題の正答率は概ね高かったが、文章等を読み取り、考察を深めたり自分の考えを表現したりする問題において正答率が低かった。

(2) 各教科について

国語 基本的な問題における漢字の読みや歴史的仮名遣い、本文の内容を適切に説明したものを選択する問題の正答率は高かったが、応用的な問題における、本文から読み取った内容を定められた字数で説明する論述型の問題の正答率が低かった。

社会 基本的事項の知識に関する問題や、地図やグラフ、写真等の資料を読み取って判断する問題の正答率は高かったが、地域の産業やできごとの年代、民主政治の仕組み等について理解し、判断する問題の正答率が低かった。

数学 基本的な計算や、図形の基礎的な問題の正答率は高かったが、既習事項を具体的な場面や数学の異なる領域・分野において活用したり、応用したりして考察を深め、統合的・発展的に捉えたりする問題の正答率が低かった。

理科 基礎的・基本的な問題の正答率は高かったが、実験・観察の結果から考察する力を問う問題や、複数の知識を組み合わせる活用する力を問う問題の正答率が低かった。

英語 話される英語の情報を正確に聞き取る力を問う問題の正答率は高かったが、英文の内容を正しく捉え、その内容に関する情報や自分の考えをまとめて英語で表現する力を問う問題の正答率が低かった。